



KUSHIRO WEST ROTARY CLUB 2016~2017 (平成27年~28年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和45(1970)年6月8日 承認 昭和45(1970)年6月10日

2016~2017 RI テーマ 「人類に奉仕するロータリー」



《例会日：毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場：ANAクラウンプラザホテル 釧路市錦町3-7》

会長 小泉 和史 幹事 松田 正昭

■クラブ事務所■

釧路市幸町14丁目1-1 ノースコートサンスイ2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

《本日のプログラム》 4月3日 12:30

普通例会

新入会員卓話(請川透会員) 担当:クラブ奉仕委員会

《次回のプログラム》 4月10日 18:00

夜間例会

クラブフォーラム 担当:国際奉仕委員会

2017年4月3日(月) 第33回 通算2176回

【点 鐘】 小泉会長

【ロータリーソング斉唱】



「国歌」「我等の生業」「四つのテスト」
ソングリーダー：上杉会員

【会長挨拶】 小泉会長



みなさん、こんにちは。4月に入り新年度がスタートしましたが、九州から関東地方では桜の開花が始まり、先週は釧路で9年ぶりに流水が漂着し、千代ノ浦海岸では多くの見物人がたくさん集まっておりました。また、経済産業省や経団連により2月末から始まりましたプレミアムフライデーでのことですが、会員みなさま、また回りの企業で取り入れたという会社はあるのでしょうか?目的は「満足感のあるライフスタイルへ変化すること」「地域活性化」「デ

フレ傾向の変革」など早くの退社で、できた余暇時間を消費や充実感のある体験につなげるとありますがぜひ、地域活性化に繋がって行くことを期待するところでもあります。本日は3月に入会しました請川会員による卓話となっておりますが、よろしくお願い致します。以上で会長挨拶終わります。

【幹事報告】



- ・ 4月のロータリーレート、1ドル116円。
 - ・ 2500地区より、昨年の道東地域を中心とした台風被害による被災地復興の義援金につきまして、最終報告が来ております。
 - ・ なお、当クラブでは9/26、10/3の例会時に計¥11,198の浄財をいただき、送金しております。ご協力ありがとうございました。
 - ・ 近隣クラブより4月例会プログラム案内。
- ・ 米山梅吉記念館より、寄付の依頼ならびに冊子。
 - ・ 鶴野支援学校より29年度入学式、始業式の案内。4/10(月)、10時開始。出席を希望される方は教頭先生へご連絡願います。

【委員会報告】

◎例会委員会 高田委員長 ～4月プログラムの紹介～

◎親睦活動委員会 上杉会員



【ニコニコ献金】

- ・ 入会記念…上杉会員
- ・ 本人誕生…高田委員
- ・ 奥様誕生…加納会員、
- ・ 結婚記念…小泉会員



【本日のプログラム】 担当：クラブ奉仕

◎新入会員卓話 請川透 会員



みなさま、こんにちは。先月の6日に入会をしましてから早いもので1か月が経ちました。そして今日は新入会員の卓話ということで、まずはこのような機会をいただきまして、本当にありがとうございます。何を話していいものか昨夜も色々考えておりましたが、とても緊張をしておりますが、自分の生立ち等、自己紹介を含めましてお話しをさせていただき、また、やはり葬儀屋さんの仕事に関して少し話させていただきたいと思いますので、少しの時間をいただきましてお話しさせていただきたいと思

います。私は生まれも育ちも釧路でございます、昭和45年に生まれましたので、今年もう少しで47歳になります。旭小学校、北中学校、北高校を卒業しまして、その後2年間、札幌の情報処理の専門学校に通いました。それから元の長崎屋のグループ会社の情報処理開発のプログラミングの仕事を2年間しておりました。実はその会社で、現在の妻と出会いましたが、この時、実家から連絡がありまして、博善社に勤めていた（当社の創立者の一人）祖母が交通事故にあっけしき、仕事にはもう復帰できないだろうということで、私に声がかかりまして、来釧することとなり、平成5年4月から博善社に入社することとなりました。子どもは長男が今年23歳、長女が20歳でございます、2人の子どもがおりますが、ようやく今年、子育てが終わりましたが、息子は釧路の美容店で見習いとして働いておりましたが、また、娘も同じく釧路の幼稚園の方に就職致しまして、2人ともまだ私の家から働きに出ておりますので、子育てが終わったという実感が全くない訳でございますが、現在4人で生活しております。

博善社には平成5年から勤めておりますので今年で丸24年、そして25年目ということになるわけですが、この葬儀社に入社をしてからのことを、今日は何点かお話しさせていただきたいと思っております。本当にあった怖い話、ではないですが、本当にあってはいけない話をお話ししたいと思っております。

入社をして初めての葬儀担当に出かけた時のことでした。なにせ初めての担当でしたのでガチガチに緊張しながら、病院へのご遺体を迎えに上がりました。当時、日赤病院は霊安室がありましてそこには少し位置の高い仏様用のベッドがありました。そこに亡くなられたお爺ちゃんが、すでに寝かされておりましたが、ご家族の方々も15名ほど霊安室で涙を流され悲しみの中におられました。ご遺体をベッドから当社でお持ちしたストレッチャーに移動するために、病棟の看護師さんに手をお借りするのですがその時いらしゃった看護師さんは2名で1人は婦長さん、もう1人は若くて細身の看護師さんでした。そしていよいよそのベッドからご遺体を移動するわけですが、婦長さんがまず頭の方を持ちまして、足の方を看護師さん持とうとしておりました、私は慣れない感じでオドオドしておりましたので婦長さんが…「ほら、葬儀屋さんしっかり腰持ってあげて」と言われました。私は、畏まりましたと言って、真剣な面持ちで、若い看護師さんの腰を両手でしっかりと支えたわけです。すると婦長さんは激怒し、「何やってるの…。その腰じゃないでしょ…」と。若い看護師さんは困った顔をしており、私は、「えっ？」という顔で周りを見ると、先ほどまで立っていたご家族様がそんな僕の姿を見ながら、肩を震わせ笑いを堪えておりました。

本当にあってはいけない話の2つ目は、お通夜の当日、ご遺体を式場までお連れします。霊柩車に乗せて、助手席には喪主様にご乗車いただきます。そして式場へと到着致しまして、おごそかに柩を祭壇前へと安置致します。そして、喪主様にはまず1番最初にお線香を手向けていただくわけですが、その時ふと

喪主様が顔を上げ祭壇を見上げ一言。「あれ？これ私だわ」その言葉に私は一瞬で背筋が凍りつきました。亡くなられた方の写真ではなく、喪主様の写真ができ上がっていたのです。ご遺体が式場に到着したのは3時30分頃、そしてお通夜は6時からです。私は早急に写真屋さんに連絡をしまして、何とか作り変えに間に合わせましたが、遺影写真というのは、大概スナップ写真からとることが多いのですが、夫婦で写っているものが多く、間違っ生きてる方の写真を遺影にしてしまうなど、本当に絶対あってはいけな話なのです。その日のお通夜は勿論、亡くなられた方のお通夜ではありましたが、私はまるで自分のお通夜のような気がするほど苦い経験となりました。

そして、3つ目は、昭和53年、まだ私が8歳ですから勿論まだ会社にはいませんでしたが、これは博善社で施行させていただいた葬儀で本当にあった話でございます。私の祖母が教えてくれました。当時この葬儀を担当したのは元の高木社長でございます。心霊写真集という番組でテレビの報道取材も博善社にきたそうです。亡くなられた方は、少し障害を持った子どもだったと聞きますが、その子は、お母さんが編んだ手編みの赤い毛糸の帽子がとても好きだったそうです。祭壇に飾ってある遺影写真はごく普通の写真です。しかし、家族集合写真でお母さんがその子の写真持って映したのものには、その手編みの帽子をかぶってしまったというものです。かなり鮮明に帽子をかぶっているのですが、当時は現在のように合成写真や複合写真などの技術もなく、真実味のある写真ということで、釧路でもかなり有名な話になりました。祖母がなぜこの話を入社したての私にしたのか？葬儀屋さんの仕事は、祭壇を作ったり、ご遺体のお世話をしたり、夜中も関係なく働かなければならないけれど、それだけが葬儀屋さんの仕事ではない。心霊写真、心霊現象と言葉で聞くと、恐ろしいとか気持ち悪いと感じるかも知れないけどそうではない。霊には心があります。佛にも心があります。残された家族にも心があります。愛する家族を思う気持ち。大切に思う心。目には見えなくてもその心を信じて少しでも亡くなられた人の気持ちになってお世話をする。大切な人を亡くした家族の気持ちになってお世話をする。本当の葬儀屋さんにいつかなれるといいね…。

そう祖母は私に言いました。高木社長は昨年他界されましたが、勤続調度50年でした。私が入社をした時、高木社長がこんなことを私に言いました。「請川君、この仕事は下積み生活長いけど頑張りなさいよ」「はい…。え？ところで普通葬儀屋さんの下積みって、どのくらいですか？」「うん、そうだね…。四半世紀かな。25年間」

今考えてみますと、私が入社をした時高木さんは、計算しますと勤続25年目だったのです。きっと自分がようやく下積みを終えたので、これから君に少しずつ葬儀屋さんの仕事を教えていっから一緒に頑張っ働こう。そう言っていたに違いありません。そして私は今年25年目です。後、1年間で…。一人前の葬儀屋さんにならなければいけないのか？間に合いそうもないのですが、先代から教わったことを胸に、これからも一つ一つ学び、仏様の心や思い、そして残されたご家族様の心に少しでもアプローチしながら、本当の葬儀屋さんを志していきたいと思ひます。本当に取り留めのない話で大変恐縮とは存じますが、卓話の挨拶にかえさせていただきます。みなさまには、ご清聴賜りまして誠にありがとうございました。

【次回例会のご案内】

4月10日（月） 18：00～

◎クラブフォーラム 家庭集会報告（担当：国際奉仕委員会）

《例会運営委員会》

4月3日	在籍数	28名		「編集：三木委員」
	出席者	18名	欠席者7名	出席率 64.3%

会報委員長： 三木 克敏 副委員長： 杉野 史和
委員： 大場 恵治 那知 哲 坂口 裕二 菊地 康平 高田 智弘 小栗 直也